



私たちの「働く意味」って、なんだろう？

職員パーパス策定プロジェクト ～第2回ワークショップの記録～

「伊丹の魅力ってなんだろう？」

前回のワークショップで見つめ直した、私たちのまちの姿。

第2回のワークショップでは、少し視点を変えてみました。

「市民は、世の中は、何を求めているのだろうか？」



主語を「私たち」から
「世の中の人々」へ。

市民や世の中の人々に
想いを馳せることで、
新たな気づきが生まれました。

伊丹市が持つポテンシャル、
伊丹市が持つ資源や歴史、
そして、そこに住まう伊丹市民。

第1回、第2回での
様々な「問い」を通じて、
伊丹市を多角的に見つめ直し、
議論することで、
ふだんの業務の中では
見えないことも見えてくる。



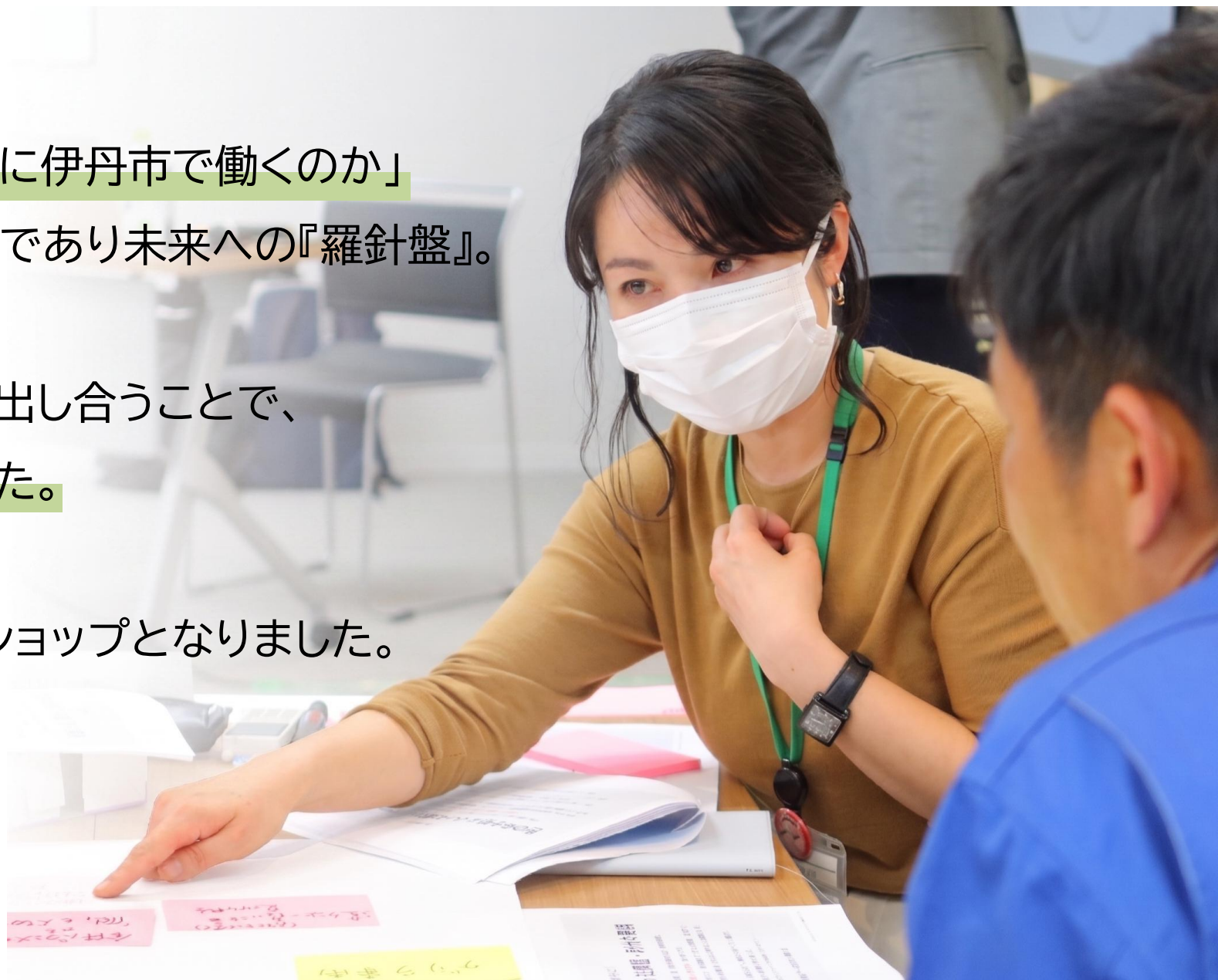
「私たちは、なんのために伊丹市で働くのか」

私たち職員の存在意義であり未来への『羅針盤』。

何度も話し合い意見を出し合うことで、

その羅針盤が見えてきた。

そんな2回目のワークショップとなりました。



「私たちが創りたい、伊丹市の理想の未来」と「私たちの存在意義」を考えてみた。

第2回 パーパス策定ワークショップ

4つのテーマ

【WORK1】伊丹市で幸せになれる人、なれない人

【WORK2】世の中が抱えている課題・時代の要請

【WORK3】私たちが創りたい、伊丹市の理想の未来とは？

【WORK4】パーパスの検討

【WORK1】伊丹市で幸せになれる人とは？ ～ターゲットの考察①～

どんな趣味を持つ人？どんな価値観を持つ人？どんな暮らしを求める人？

大都会で幸せを感じる人と、自然豊かな田舎で幸せを感じる人はきっと違う。

では、伊丹市で幸せになれるのは一体、どんな人でしょうか？

出てきたのは、「ほどよく便利な暮らしを求める人」「人とつながることが好きな人」

「他人と比べず、肩肘張らない毎日を求める人」といった声。



- 「ほどよさ」と「堅実さ」を求める人
- フットワークが軽く、アクセスを楽しめる人
- 身近な楽しみやローカルカルチャーを愛する人
- つながりとポジティブさを大切にする人

【WORK1】伊丹市で幸せになれない人 ～ターゲットの考察②～

逆に「伊丹市で幸せになれない人」だって確かに存在する。
それって、どんな価値観の人？どんな暮らしを求める人？

「毎日、釣りがしたい人」

「人と一切関わりたくない人」

確かにそういった人たちは、
他の街に住む方が幸せになれるのかもしれませんが。

逆を考えてみることで「伊丹らしさ」を
浮き彫りにしていくことができます。



- 「最先端・高級」や「完全な田舎」を求める人
- 移動手段や利便性への過度な要求をする人
- 本格的なアクティビティを求める人
- 孤立を好む人、または過敏な人

【WORK2】世の中が抱えている課題・時代の要請

一步踏み込んで「本当の幸せとは何か」を考えてみると、
つながりの希薄化や孤独感。心の余裕のなさや生きづらさ、、、
世の中が抱える課題に目を向けることで、私たちがどうあるべきかが見えてくる。

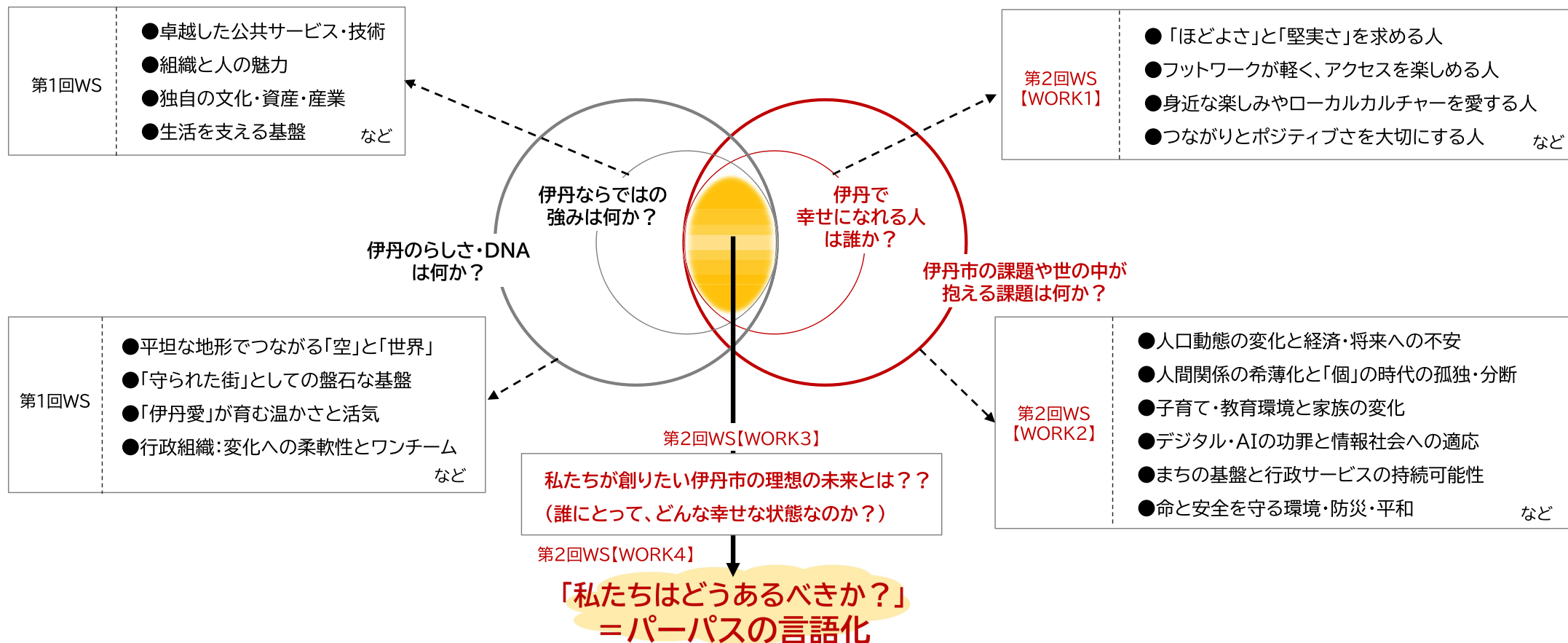
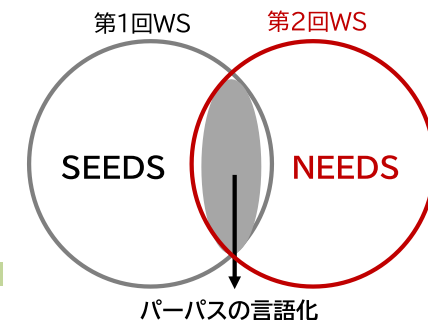
私たち伊丹市は、世の中のどんな課題を解決し、どんな要請に応えるのだろうか？

- 人口動態の変化と経済・将来への不安
- 人間関係の希薄化と「個」の時代の孤独・分断
- 子育て・教育環境と家族の変化
- デジタル・AIの功罪と情報社会への適応
- まちの基盤と行政サービスの持続可能性
- 命と安全を守る環境・防災・平和



パーパス言語化に向けた構造と、ここまでのまとめ

第1回WSと第2回WSを通じて、いよいよパーパスの言語化が近づいてきました。
 私たちが創りたい理想の伊丹市と、それを実現するために私たちはどうあるべきか？



【WORK3】私たちが創りたい、伊丹市の理想の未来とは？

「背伸びしない、等身大で暮らせる街」

「人の温もりとつながりが感じられる街」

「誰もが安心して暮らせる街」

「市民と幸せを共創する街」

一人ひとりの理想の伊丹市を共有しました。

街と市民に、想いを馳せれば馳せるほど、
奥にしまっていた心が動き始めます。

「伊丹市で働くからには、

自分たちの手で伊丹市を良くしたい」

お互いの気持ちを確認め合う時間になりました。



- 「ほどよい」を極める、背伸びしない「いぶし銀」のまち
- 人の温もりを感じ、多世代が交わる「あたたかい」まち
- 子どもが笑顔で、一度出ても「帰ってきたくなる」まち
- コンパクトで移動しやすく、日常が「ちょっと楽しい」まち
- 災害に強く、安定して「普通に暮らせる」まち
- 市民と伊丹市が共に創り、誰もが「伊丹愛」を持てるまち

【WORK4】パーパスの検討

「その理想の未来を実現するため、私たち伊丹市はどう在るべきか？」

今回のワークショップ最後の「問い」です。

もっとも難しい「想いの言語化」に全員でトライしました。

「市民に寄り添う伴走者」

「誰かの伊丹愛に火をつける」

「多様な人が活躍できる場をつくる」

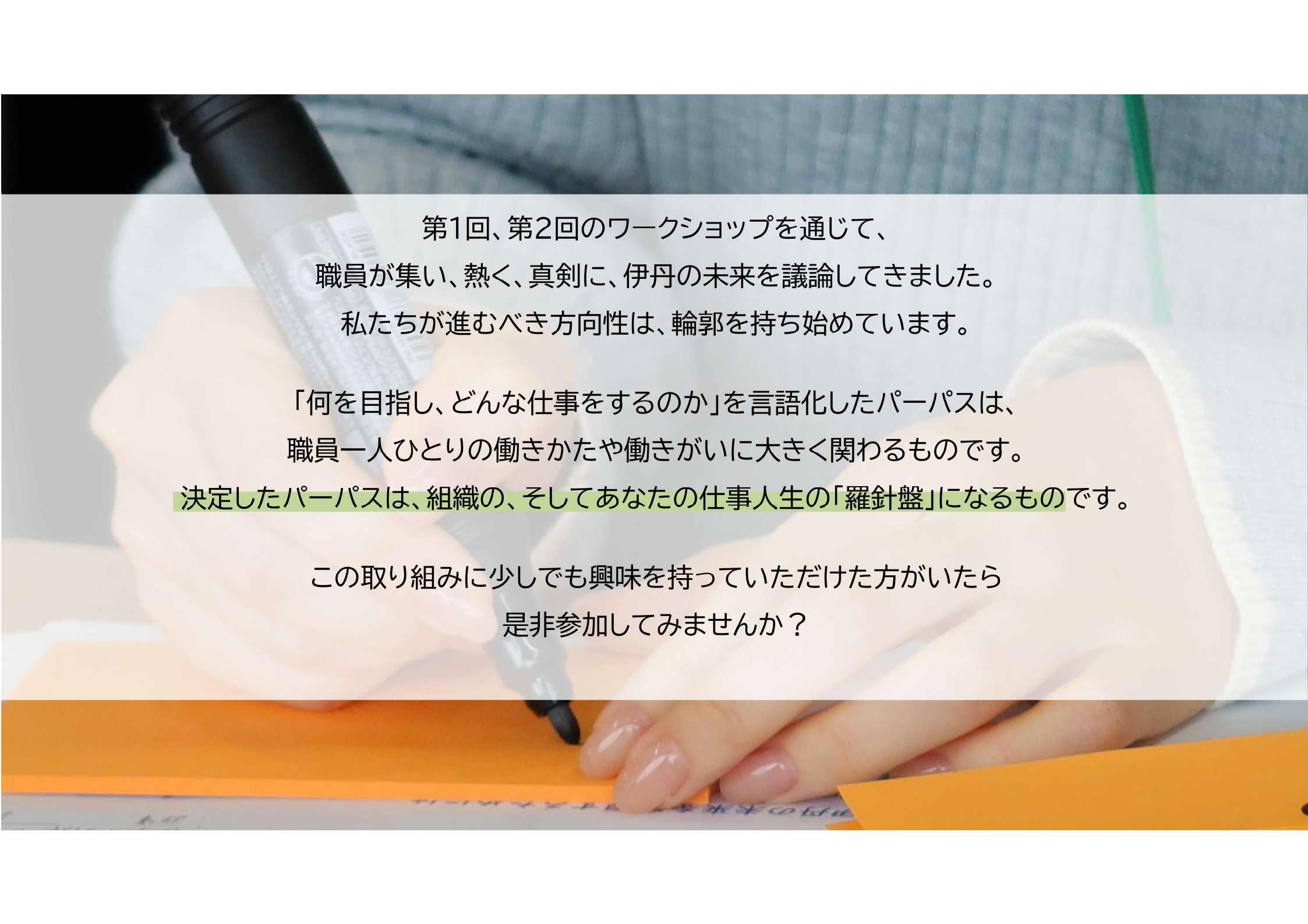
伊丹市が何を目指し、

職員一人ひとりがどうあるべきなのか。

いくつかの方向性が見えてきました。



- 「ほどよい」を極め、その先へ挑戦する存在
- 市民に寄り添い、共にまちを育てる「あたたかい伴走者」
- 人と人をつなぎ、「居場所」と「役割」を生み出す存在
- 究極の「普通の暮らし」と安全を死守する存在
- 笑顔と伊丹愛に火をつけ、「住んでよかった」を創り出す存在



第1回、第2回のワークショップを通じて、
職員が集い、熱く、真剣に、伊丹の未来を議論してきました。
私たちが進むべき方向性は、輪郭を持ち始めています。

「何を目指し、どんな仕事をするのか」を言語化したパーパスは、
職員一人ひとりの働きかたや働きがいに大きく関わるものです。
決定したパーパスは、組織の、そしてあなたの仕事人生の「羅針盤」になるものです。

この取り組みに少しでも興味を持っていただけの方がいたら
是非参加してみませんか？



いよいよ、次はワークショップ最終回。
これからの伊丹市の羅針盤となる
パーパスの案をさらに深めていきます。

自分たちの未来を、自分たちで創る。
なかなか出来ない経験が、きっとできるはず。



さあ、未来の話をしましょう。



中田市長より、本日の感想

今日出た意見、本当に自分も勉強になりました。特に私に響いたのが、「今あるものにプラスアルファ」とか「今よりも上を目指したい」とか、皆さんが一步踏み込んだところを考えようとしていたこと。皆さんの腹にストンと落ちるパーパスを作っていきたいと思うので、ぜひこの続きも期待してもらえればと思います。

参加者の声

否定のない、 前向きな議論が心地よい

一番印象的だったのは、議論の中で否定的な意見が全くなかったことです。普段の仕事だと、どうしても後ろ向きな話が出てしまうこともあります。今回は『みんなで前に進めていこう』という空気感があって。100人いれば100通りの見方があることを再認識しましたし、それを認め合いながら対話できるのは、この場ならではの魅力だと思います。

仕事への向き合い方が ちょっと変わる

最初は3時間って長いな、疲れるだろうなと思っていました。確かに頭はフル回転で疲れましたが(笑)、終わってみればあっという間。『風通しのいい職場ってなんだろう』と考えたり、他部局の裏側の苦勞を知ったりすることで、日々のハウレンソウといった自分の業務に対しても、新しい視点で取り組みそうな気がしています。

自分たちの手で、 この街の未来を描く

『パーパス(存在意義)』を決めるのは、正直めっちゃくちゃ難しいです。でも、時間をかけてみんなで議論することの重みを感じています。私は伊丹で働き、伊丹に住んでいます。退職後もこの街がどうなっていくか。自分たちの手で納得のいく未来を作っていきたい、そんな思いで参加しています。